

『市立学校、市立幼稚園及び教育施設の適正規模
及び適正配置並びに教育施設のあり方について』

提 言 書

南あわじ市学校等適正規模及び教育施設検討委員会

平成22年6月

1、はじめに

本委員会は、南あわじ市が平成21年2月に南あわじ市庁舎等公共施設整備検討委員会から答申を受けました、「南あわじ市庁舎等公共施設整備基本計画書」をもとに、教育委員会所管の公共施設のあり方について検討を行ってきました。将来において、少子高齢化が進むことが予測されるなか、施設の適正規模・適正配置に重点をおいて検討した結果を、ここに提言書として報告するものです。

2、基本的な考え方

「南あわじ市庁舎等公共施設整備基本計画書」の意見を十分に尊重し、検討を行いました。

(南あわじ市庁舎等公共施設整備基本計画書より抜粋)

3、その他の公共施設のあり方

小中学校のあり方

教育は将来に対する重要な投資であることに鑑み、あくまで子どもたちの目線に立ち、小規模学校においては「授業等の展開における集団効果、集団活動の活性化」等を考慮し、総合的かつ長期展望に立った上で関係者や地域住民と十分に議論を重ね義務教育環境の充実に向け、統廃合も含め検討されたい。

幼稚園・保育所・保育園のあり方

保護者の利便性に配慮しながら、通園・通所の状況及び特別保育のあり方などを考慮し、施設の老朽化に伴う改修時期等を十分念頭に置き、統廃合や幼保一元化の手法も視野に含め検討されたい。

さらに、民営化も考えられるが、慎重を期して検討されたい。

中央公民館のあり方

「(仮称)市民交流センター」に地区公民館機能を包含することから、中央

公民館のあり方について関係者や利用者の意見を求め、検討されたい。

その他

旧三原郡4町の合併により、数多くの類似公共施設が市内に点在しており、すべての現有施設を維持した中での運営は、昨今の財政状況から考えると精査が必要です。

その手法として、行財政改革の一端からも進められている指定管理者制度の導入・民営化等を推進しつつ、それぞれの施設の利用状況、維持管理コスト及び施設の老朽化に伴う大規模改修・耐用年数等の時期をより慎重に考慮して施設の性格によっては、関係者や利用者の理解を得て整理統廃合に向けての取り組みを検討されたい。

(1) 小中学校について

児童生徒数が減少している現状において、子どもの生活や学習の視点から考える必要がある。子どもたちに多様で心豊かな出会いを創出してその成長を促し、切磋琢磨する環境において教育の質の向上を図り、子どもたちに夢と希望を与え、社会に生き抜く力（生きる力）を育む教育を推進する事が必要である。そのためには、今後の児童生徒数の推移を見ながら統廃合を進めることが望まれる。

小学校の複式学級や中学校のクラス替えのできない単学級が課題であるが、急速な時代の変化によるまちづくりの進展や市民意識の変化などを踏まえ、へき地等地域の実情や市内における適正配置を考慮して総合的に判断することが望まれる。

今後、統廃合については、関係地域住民の十分な理解を得ながら進めることが必要である。

(2) 幼稚園について

幼稚園生活全体を通して、生活経験や発達の過程において「生きる力」を育成し、生涯にわたる人間形成の基礎・基本を養うことを目標として幼稚園教育が推進されているが、少子化や家庭・地域を取り巻く環境の変化の中、時代の変化を見据え、地域の実情や市内における適正配置を考慮して統廃合を進めることが望まれる。

今後、統廃合については、関係地域住民の十分な理解を得ながら進めることが必要である。

(3) 公民館について

緑・西淡・三原・南淡公民館（旧町時代の中央公民館）が合併後も継続されているが、公民館活動の一層の充実を図るための適切な職員配置を整えた「南あわじ市中央公民館」（仮称）1館に集約することが望まれる。

また、地区公民館のあり方については、市民サービスの補完機能・地区公民館機能・コミュニティ活動支援の機能を合わせ持った「市民交流センター」（仮称）に包含することとして、小学校区単位（旧小学校単位に潮美台を加えた21カ所）に配置することが適当である。

(4) 図書館について

図書館と図書室施設がそれぞれ2箇所ずつ合併後も継続されているが、図書館機能の一層の充実と特色を残した中で、適切な職員配置を整えた図書館施設として、「南あわじ市図書館」(仮称)に図書館機能を1館に集約することが望まれる。

なお、これにより利便性を欠くことのないよう、図書の貸出し返却機能を有する施設を検討する必要がある。

(5) その他社会教育施設について

費用対効果と地域のバランスに配慮しつつ、社会体育施設については、統廃合の考えに立ち適切な核施設を配置することが望まれる。

また、指定管理者制度の活用も視野に入れ効率的な施設運用を図る必要がある。

なお、島内唯一の公設美術館である滝川記念美術館、伝統文化の拠点施設として淡路人形浄瑠璃資料館は引き続き存続する必要がある。

(6) 給食センターについて

南あわじ市・洲本市小中学校組合給食センターについては、施設

の老朽化や設備、備品等の改善、充実を図り、より一層安定した学校給食事業を行なうために南あわじ市学校給食センターに統廃合することが望まれる。

今後、統廃合については、洲本市との協議のうえ関係地域住民の十分な理解を得ながら進めることが必要である。